

各部会報告および今後の部会編成について

28年度 豊明市障害者地域自立支援協議会

資料 2-1

個別の課題解決・抽出

地域課題の共有・解決

担当者会議

- ・月1回開催(内年4回は事業所の代表者を併せて開催)
 - ・地域課題の共有
 - ・相談支援状況の確認
 - ・困難事例の対応
 - ・関係機関との連絡調整
- メンバー
フィット、社会福祉課・児童福祉課、指定特定相談支援事業所、指定障害児相談支援事業所

地域自立支援協議会

- ・年1・2回開催
- ・地域課題の共有・提言
- ・専門部会設置に関する検討
- ・地域課題解決のための協力体制の構築

報告

報告

運営調整会議

- ・年4回開催
 - ・専門部会・自立支援協議会の議題・内容の検討
- メンバー
・相談支援アドバイザー
・フィット
・社会福祉課・児童福祉課
・各専門部会長 など

専門部会

- ◆ 療育支援部会
- ◆ そだつ部会
- ◆ 地域生活支援部会

- 協議会が指定する事項の調査・研究
- 地域課題の具体的解決方針の検討

個別支援会議

- ・個別事例から地域課題の把握
- ・随時又はサービス担当者会議として開催
- ・個別事例にあわせ参加者を招集
- ・関係者間の支援目標の共有・役割分担

運営の相談

報告

提案

そだつ部会 報告

豊明市障害者地域自立支援協議会の部会として、共通の課題である人材育成・確保について取り組んでいくため、平成 26 年度から「そだつ部会」を新設しており、今年度は「研修会」と「福祉のお仕事見学会」、「豊明市福祉ガイドブック作成委員会」を実行委員形式で開催した。

1 研修会

1. 趣旨

事業所職員全体の資質向上と、離職予防に役立てるため、実際に学びたいと感じている身近なテーマをもとに研修会を開催する。スタッフとして企画に携わることで自身のモチベーションも維持していく。

2. 今年度の研修会

	月日/場所	テーマ	内容	参加者
1回	7月13日(水) 10:00~12:00 総合福祉会館	風通しの良い職場関係のつくり方~よりよいコミュニケーションを身につけて~	・針生英司氏 講義 アチーブメント株式会社	27名 実行委員4名
2回	10月1日(土) 10:00~12:00 総合福祉会館	「思いやり」がバリアフリーをつくる~障害者差別解消法を追い風にして~	・玉木幸則氏 講演 ・当事者からのメッセージ	60名(一般公開) 実行委員3名
3回	1月18日(水) 10:00~12:00 総合福祉会館	障がいのある人の地域生活を支えるために~とあるAさんのライフプラン~	・参加者の相互理解を目的に、仮想事例を用いたグループワークを実施。 ・地域生活支援部会の進捗状況を報告。	32名 実行委員5名

3. 今年度工夫した主なことから

- ・事業所内の人間関係に着目し、コミュニケーションスキル向上により離職防止につなげていくことを目指した。
- ・権利擁護については常に考えていかないといけないテーマとして今年度も研修を実施。今年度4月より施行された「障害者差別解消法」について、一般公開の研修会としていった。
- ・支援者が互いの事業内容や支援内容を理解していくことが重要と考え、前年の「顔の見える関係を」をより発展させ、支援事業所の相互理解を目的としたグループワークを実施。

4. 効果

- ・研修会毎に参加者アンケートを実施しており、約9割以上が「とてもよかった」「よかった」と回答されている。
- ・実行委員からは、他の事業所職員と同じテーマで深く考えることができ、意見を交換し研修企画することで、お互いの考えがわかり信頼が増し、連携しやすくなったと感じるという意見が多かった。

5. 来年度について

案 キャリアごとの研修を企画

- ・実務1~3年目の方の初任向け
- ・中堅向け研修の実施
- ・管理者交流会

2 福祉のお仕事見学会

1. 趣旨

職員やボランティア、実習生などの人材確保につなげていけるよう、福祉の仕事に関心のある方に市内の事業所の仕事内容や職員について知ってもらうために見学会を開催する。受け入れ側の事業所職員は、自分の仕事について説明をしたり周知をしたりすることであらためて自分の仕事について考えモチベーション維持にも役立てられるようにする。

2. 主な日程

月 日	出来事	主な内容	出席
5月13日(金)	第1回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年振り返り ・今年度の取り組み 目的、方針、開催日、内容、周知 ・対象者と見学先、日程の検討 ・当日の主な流れ確認 	実行委員7名 事務局2名
6月3日(金)	第2回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・見学事業所、日程を決定 ・広報先の分担 ・ミニ研修会、交流会の内容検討 ・役割分担 	実行委員9名 事務局2名
6月中旬～	広報開始	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布(公所、学校等) ・広報豊明 ・ゆいまるクラブ ・face book 等 	
7月28日(木)	第3回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・申し込み状況の確認 ・スケジュール、役割分担再確認 ・ミニ研修会、交流会について最終確認 	実行委員9名
8月2日(火)	見学会 (9時30分 ～14時15分)	名鉄前後駅集合⇒ミニ研修会(南部公民館) ⇒放課後等デイサービスくるみの会 ⇒むぎの花・むぎ花ファーム⇒あびっと ⇒豊明市社会福祉協議会	参加者23名 (学生7、一般16) 実行委員8名 事務局2名 社会福祉課1名 合計34名
9月14日(木)	第4回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会振り返り ・来年度にむけて 	実行委員9名 事務局2名

3. 今年度工夫した主なことから

- ・主な対象者を学生に設定したため、開催日を夏休み期間に設定。
- ・学生の目を引くデザインのチラシを作成、申し込みがしやすいメールフォーム用QRコードを作成、チラシに記載。
- ・そだつ部会facebookページを作成、QRコードをチラシに記載。
- ・障がい福祉サービスの基本的な内容や、福祉の仕事のやりがいについて現場の声をお伝えする「ミニ研修会」を見学会の中で開催。

4. 効果

- ・過去最多数の参加があった。
- ・チラシのメールフォーム用QRコードから申し込みが学生3名からあった。
- ・(アンケート結果より)「福祉の仕事の印象がよくなった」という方が18名、「将来福祉の仕事に就きたい」という方が15名。

5. 来年度について(見学会終了後、振り返り会議より)

- ・これまでの見学会参加者に手紙で案内を出す。
- ・雇用主や人事権のある立場の人に人材確保、人材育成、離職防止を検討してもらいたいという意見
- ・事業所就職説明会の実施
事業所見学会のバスツアーでは、市内事業所全てを回ることが難しいため、事業所に集まっていただき、PRビデオなどを使用し事業所紹介を行い、同時に面接会も実施する。
- ・ヘルパーの人材確保
静心会で実施されているヘルパー養成講座の事前研修やフォローアップ研修を実施し、障がい者支援について知る機会を作る。
- ・事業所見学バスツアーは例年通り夏休みに実施。

3 豊明市福祉ガイドブック作成委員会

1. 市内に障がい福祉事業所が増えたこともあり、平成 25 年度に作成した豊明市福祉ガイドブックの改定を行う。
2. 実行委員 5 名で、見る人がわかりやすくするための構成を検討するため 5 回の打ち合わせ会議を実施。各事業所へフォーマットを送り記入いただき製本作業中。年度内に完成予定。

1. 趣旨

市の実情にあった地域生活支援について、当事者の方やご家族の意向・意見をいただき、施設関係者等を交えて協議し、役割分担と効果的な連携体制について確認しながら、国が示している地域生活拠点等を一緒に作り上げていけるようにする。

2. 今年度の活動

第1回 部会

日 時： 平成28年6月23日（木）10時～12時

出席者： 17名

- 検討内容： 1 アンケート結果の報告
 前年度に実施した地域生活支援部会に関するアンケートの結果報告
- 2 今後の部会の持ち方について
 緊急時ショートステイと居場所・サロンづくりについて作業チームを作り取り組む。部会では作業チームの経過確認を行う。
- 3 部会長選任
 ゆたか苑平野氏が立候補し、部会長就任。

第2回 部会

日 時： 平成28年8月23日（火）10時～12時

出席者： 16名

- 検討内容： 1 緊急時ショートステイの確保について
 障がい種別毎に検討、ゆたか苑など既存のサービス利用を中心に日中活動支援を実施している事業所から特性に合わせた支援について引き継いでいく仕組みを検討。精神障がいの方に対して、心の支援も含めた生活を支える方法も必要。
- 2 サロン・居場所作りの進め方
 場所は三崎発展会の Egao 家を使わせてもらえる。
 運営体制の検討を中心に行う。地域の方もボランティアとして声をかけていく。
- 3 各プロジェクトのメンバー構成
 ・緊急時ショートステイプロジェクト
 平野氏（ゆたか苑）、大谷氏（ファイン相談）、佐藤花織氏（スマイルクラブ）、佐藤薫氏（てかぼ）
 ・サロン居場所プロジェクト
 脇本氏（てかぼ）、池戸氏（藤田メンタル）、大谷氏（ファイン相談）、田中氏（豊明福祉会）

第3回 部会

日 時： 平成29年2月2日（木）10時～12時

出席者： 12名

- 検討内容： 1 各プロジェクトの進捗状況報告
- 2 地域生活支援拠点の整備に向けた部会の活動予定
 現状と課題について確認。既存の体制で対応できるものとより強化していく必要なものがある。体験の機会や場所がないため引き続き検討が必要。
- 3 自立支援協議会報告について確認

3. 来年度について

各プロジェクトチームの活動状況を踏まえ、地域生活支援拠点整備に向けて検討を継続していく。

地域生活支援部会 緊急時短期入所・レスパイトプロジェクト 報告

1. プロジェクト内容

第1回

平成28年10月18日（火）10時～12時

- ・ゆたか苑や相談支援事業所で対応しているケースについて確認。
- ・①相談先がわかるようなフローチャートの作成②情報共有シートの作成③障害者福祉計画策定に合わせたアンケート実施に取り組むことを確認。

第2回

平成28年11月29日（水）10時～12時

- ・医療的ケアが必要な方の短期入所について、介護保険施設の利用の可能性を検討するも、現状では利用が難しいことを確認。大府市にあるクリニックが短期入所の指定を受けているためその利用を検討。
- ・短期入所時に必要な情報について確認。事業所の情報提供と市の認定調査票などより利用者の状況を確認していくこととなり、情報提供シートの作成は行わないこととなる。

第3回

平成29年1月20日（金）10時～12時

- ・緊急時に短期入所先が見つかるまでつないでいく仕組みについて検討。
- ・①日中活動系事業所で一時的に宿泊する仕組み②グループホームの空室利用（新規設立時に補助金を出し、用件として入れる）③空家・公共機関の空きスペースを利用した宿泊できる仕組みという案が出る。障害者福祉計画策定に伴い実施するアンケートとともに緊急時短期入所のニーズ調査をすることを検討。

第4回

平成29年3月9日（木）10時～12時

- ・アンケート内容の検討・作成。
- ・来年度の同プロジェクト活動予定の確認。

2. 来年度の予定

- ・アンケート調査により緊急時短期入所のニーズ結果を検証していく。医療的ケアの必要な方が多ければ、介護保険施設へ障がい福祉サービスの指定を受けたいと交渉を検討。
- ・緊急時短期入所先が見つかるまでつないでいく支援のあり方についても継続して検討。
- ・緊急時に、区分認定を受けていない方が障がい福祉サービスを利用できるように、特例介護給付費が使えるようにしていけないか。

地域生活支援部会 みなスマプロジェクト 報告

1. プロジェクトの内容

第一回（10月19日）

居場所、サロンの候補地がEgao家だけでなく、他に、前後駅近くの喫茶店マノン、社会福祉法人豊明福祉会のマーメイドカフェや株式会社びいす系列のプチびいすも11月より障がい・認知症カフェとしてやっていく予定があるようで、このサロンに場所の提供が可能との情報をプロジェクトメンバーからいただく。

市内のカフェめぐりなどの企画案もあがり、その他の市内事業所が運営するカフェにも声をかけていく方向性。今後のプロジェクトスケジュールも確認した。

- ・サロンの骨子作り
- ・サロン運営の方法の検討
- ・名古屋市千種区の地域サロン「くにハウス」の見学の実施

第二回（11月18日）

名古屋市千種区の地域サロン「くにハウス」の見学の実施

地域サロンの理想的なスタイルをもつくにハウスへ行き、運営者（丹羽邦子氏）のお話を伺う。

ふらりと立ち寄ることができ、ほっとできる場所の大切さを学ぶ。

第三回（12月8日）

- ・くにハウスの見学の振り返りと、継続的にサロンを運営できる仕組みについて検討。
- ・フィットが行っている居場所事業の「つながる」とコラボレーションして、開催頻度を月1回ではなく、月2回に開催できる方向性を検討。
- ・プロジェクトの目的でもある地域理解促進の一環で、藤田保健衛生大学のアセンブリの申し込みを進める。
- ・予算の確保の可能性として、社協の支えあいのまちづくり事業について話題に上がり、説明をして頂く。
- ・次回までにサロンの骨子になる、サロン要綱案を作成する。

第四回（1月12日）

- ・実施要綱案の検討。修正点について意見交換。
- ・市内カフェめぐりができるよう、むぎの花やハーミットへも相談していく。
- ・実施主体（運営主体）はPJメンバーとしていき、地域住民ボランティアや藤田保健衛生大学のアセンブリの学生と協力して活動を行う。地域ボラの中より核となる方が決まったら運営主体を移していく。そのために人材育成を実施。フィットは月2回とも活動し、PJメンバーは持ち回りで活動へ参加していく。
- ・企画内容は学生より提案してもらおう。イベントはEgao家と一緒にすることもできる。
- ・4月より開催できるように準備を進めていく。

第五回（2月14日）

- ・サロン実施要綱の最終確認
- ・4月以降のスケジュール確認
- ・藤田保健衛生大学のアセンブリの進捗状況
- ・プロジェクトメンバーの役割分担（担当する月の確認）
- ・自立支援協議会本会議の報告内容の確認

2. 来年度の動き・予定

- ・毎月、平日と土日の2回頻度でサロンを開催。（月ごとに企画を設定し、地域の障がいのある方にご案内する）
- ・運営は、基幹相談支援センターとプロジェクトメンバーでまずはスタートをする。
- ・プロジェクトチームでの検討会も随時行う。

平成28年度障がい児支援の取り組みについて

1 会議等の開催実績

(1) 障がい児相談支援連絡会

開催日程	主な内容
全11回開催（5～3月） 豊明市役所	・セルフプランから指定障害児相談へのケース移行 ・事業所間の情報交換、情報共有 ・事例検討 ・地域課題の共有と今後の取り組みに関して 等

(2) 障がい児福祉事業所連絡会

開催日程	主な内容
1回開催（9月） 豊明市役所	・障がい児相談連絡会の報告 ・各事業所の現状報告 ・サポートブックの周知 等

2 今年度の取り組みのまとめ

(1) 相談支援実施率の向上

セルフプランの多さが大きな課題となっていたが、障がい児相談支援連絡会の中で市内障害児相談支援事業所との調整を図り、大きく相談支援実施率の向上を図ることができた。このことにより、当事者への継続的な地域マネジメント支援の充実、障害児福祉サービス利用の適正化、地域課題の顕在化といった成果が見られた。

	障害児通所支援 受給者証発行（A）	計画作成済（B）	Bのうち セルフプラン	達成率 （B/A）
27年度末	115	115	95	100%
28年2月末	124	124	37	100%

(2) 障害児相談支援事業所の支援強化

障がい児相談支援連絡会において、障害児相談支援事業所に制度や地域の最新情報の提供を行うとともに、学校や保育関係機関の集まりで障害児福祉サービスや障害児相談支援に関する周知を行った。このことにより、地域で障害児福祉に関する理解がすすみ、障害児相談支援事業所が円滑に地域マネジメントを行うことができる体制づくりがすすみつつある。

(3) 地域における障害児福祉サービス事業所の実態把握

市内の障害児福祉サービス事業所が増加してきており、それに伴い、支援プログラムが多様化してきている。同じく多様化する利用者のニーズとのマッチングと障害児福祉サービス事業所の支援の質の確保が重要となっているため、その実態把握に努めた。

	児童発達支援	放課後等デイサービス
28年度当初	2	6
29年度予定 ※	5	9

※29年3月現在、把握している予定含む

3 来年度の取り組みについて

(1) 相談支援実施率の向上

- ・障がい児相談支援連絡会でさらに推進させていく。
セルフプランを望まれている方以外には指定障害児相談支援事業所が関われるようにしていく。

(2) 教育と福祉の連携

- ・合同研修会の開催
学校教育課と児童福祉課で研修会や見学会を企画していく。
- ・三好特別支援学校進路説明会への協力
三好特別支援学校の方だけとは限定せず、市内特別支援学級や他の特別支援学校の保護者にも声をかけていく予定。

(3) 障害児支援の提供体制整備等

- ・児童発達支援センターの検討（療育支援部会の中で検討していく）

個別の課題解決・抽出

地域課題の共有・解決

担当者会議

- ・月1回開催(内年4回は事業所の代表者を併せて開催)
 - ・地域課題の共有
 - ・相談支援状況の確認
 - ・困難事例の対応
 - ・関係機関との連絡調整
- メンバー
フィット、社会福祉課・児童福祉課、指定特定相談支援事業所、指定障害児相談支援事業所

地域自立支援協議会

- ・年1・2回開催
- ・地域課題の共有・提言
- ・専門部会設置に関する検討
- ・地域課題解決のための協力体制の構築

報告

報告

運営調整会議

- ・年4回開催
 - ・専門部会・自立支援協議会の議題・内容の検討
- メンバー
・相談支援アドバイザー
・フィット
・社会福祉課・児童福祉課
・各専門部会長 など

提案

専門部会

- ◆ 療育支援部会
- ◆ そだつ部会
- ◆ 地域生活支援部会

(緊急時ショートステイPT、みなスマPT、相談支援PT)

※働くを考える会(仮称)準備会

- 協議会が指定する事項の調査・研究
- 地域課題の具体的解決方針の検討

報告

個別支援会議

- ・個別事例から地域課題の把握
- ・随時又はサービス担当者会議として開催
- ・個別事例にあわせ参加者を招集
- ・関係者間の支援目標の共有・役割分担

運営の相談